

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)

プロジェクト研究 (共同プロジェクト研究)

2018年度研究【経過・成果】報告書

研究代表者	所属部局・職		氏名			
	文学部・教授		石川 巧 印			
研究課題	江戸川乱歩所蔵資料の活用による探偵小説研究					
研究組織 (研究代表者・ 研究分担者) 2019年3月現在	所属研究機関・部局・職		氏名			
	立教大学文学部・教授		石川 巧			
	立教大学文学部・教授		金子明雄			
	立教大学文学部・特任教授		川崎賢子			
研究期間	2017年度 ~ 2018年度					
研究経費※ (上段：支出金額)	2017年度		2018年度		年度	総計
	3,484,215	円	2,505,000	円	円	5,989,215 円
(下段：採択金額)	3,495,000		2,505,000			6,000,000

※1円単位で記入

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター運営委員として活動するメンバーのうち、日本近代文学を専門とする研究者3名が集い、本学図書館が管理する江戸川乱歩の旧蔵書籍、資料をよりよい状態で整理・保存・公開するための方法を考究するとともに、それを活用した研究を実践するものである。特に本研究がめざしたのは、日本近代における探偵小説の生成と発展過程を大衆文化の隆盛という観点から分析・検証することである。日本近代における探偵小説は雑誌・映画・テレビといったメディアの発達と深いつながりをもっている。そこで、本研究では、(1) 江戸川乱歩における犯罪学、法医学、性科学、心理学などの吸収、(2) 1920年代以降の急速な都市化と社会状況の変化、モダニズム文化、戦争体験などの影響、(3) 語り、描写法、人物造詣、プロットの構成などといった小説表現のあり方、(4) 乱歩がそれ以後の探偵小説に与えた影響、以上の四点を中心に共同研究を進めた。また、乱歩旧蔵資料の活用に関しては、海外の研究者の意見や要望にも関心を払っておく必要があるため、国際シンポジウムの開催、および、海外研究者を含めた専門書の出版などを行い、今後の研究のあり方を提示した。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

{ 江戸川乱歩 } { 探偵小説 } { 資料調査研究 }

## 研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

## 1 国際研究

近年、乱歩研究は海外においても注目されつつある。「乱歩コンファレンス」を起点に始まった日本とアメリカの研究活動はすでに 20 年近い歴史を重ねているし、2016 年 10 月にはパリ日本文化会館とパリ・ディドロ大学において国際シンポジウム「Edogawa Ranpo oules labyrinths de la modernité japonaise (江戸川乱歩あるいは近代日本の迷宮)」が開催されている。企画者のひとりであるジェラルド・ブルーが「1970 年代に入ってから、大衆文化の再評価、文学理論の中の読者論、視覚論、ジェンダー論、ポストコロニアル理論、カルチュラル・スタディーズなどの諸理論により、乱歩の重要性とモダニティが再発見・再評価されるようになったのは、まずは、アメリカと日本であった。今回のシンポジウムは、以上の変遷をもとに、また、没後 51 年目に、日・米・欧の三つの視点を交差しながら、江戸川乱歩という人物、その作品、その背景とディスクールの再評価の契機となった」(「江戸川乱歩、巴里にやって来た。」(『大衆文化』第 16 号、2017 年 3 月)と評価するように、乱歩の存在は欧米においても大衆文化やモダニズムとの関連において再評価されつつある。本研究に RA として参加している落合教幸は同国際シンポジウムに参加して海外研究者との交流を深めるとともに、『怪人 江戸川乱歩のコレクション』(2017 年 12 月、新潮社)の共著者として江戸川乱歩邸の資料に関する情報発信に務め、国際研究に大きな貢献をしている。本プロジェクトでは、そうした蓄積を踏まえて海外調査(ロシア、中国、韓国、台湾、アメリカ等)や国際学会での発表などを積極的に行い、海外研究者との交流を深めた。

## 2 野村胡堂記念館との連携

捕物作家クラブの創設者である野村胡堂と探偵作家クラブの初代会長である江戸川乱歩は生涯にわたって交流を続け、お互いの作家的営為を認め合うとともに、捕物小説、探偵小説それぞれのジャンル形成、読者拡大、新人作家の育成に尽力した。2017 年 12 月 12 日から 2018 年 3 月 18 日にかけては、岩手県紫波町にある「野村胡堂・あらえびす記念館」において企画展「野村胡堂と江戸川乱歩」が開催されたが、本研究メンバーの金子、石川、並びに大衆文化研究センター助教の丹羽みさとがそれぞれ企画展を訪れて同記念館学芸員の協力のもと、書簡、記録文書、雑誌、書籍などの調査を行った。旧江戸川乱歩邸に所蔵されている江戸川乱歩宛の書簡に関しては比較的容易に内容を把握することができるが、江戸川乱歩から発信された書簡類に関してははまだ知られていないものも数多くあるため、本研究に関する重要資料を入手することができた。また、本学大衆文化研究センターは「野村胡堂・あらえびす記念館」との協力を深め、お互いの資料貸出や共同研究を促進していくことで合意した。今後はそれぞれの館や所蔵する資料、特に書簡や寄贈品などを照らし合わせることで二人の交流の軌跡を検証し、探偵小説における捕物小説の影響を考察していくことができると考えている。

## 3 未整理資料の調査

旧江戸川乱歩邸における未整理資料に関しては、RA の落合教幸が継続的に書籍、書類等の調査を行うとともに、2017 年 10 月から大衆文化研究センターの助教となった丹羽みさとが精力的に活動し、資料の閲覧がしやすい環境となった。共同研究メンバーである石川、金子、川崎もたびたび旧江戸川乱歩邸の書庫に入り、書籍、雑誌、書類等の調査を行った。その成果に関しては日本近代文学会春季大会(2018 年 5 月・早稲田大学)で「江戸川乱歩所蔵資料の活用による探偵小説研究」と題するパネルで報告した。また、未整理資料については協力メンバーの落合教幸が「〈資料紹介〉江戸川乱歩未発表小説草稿「ダアキン氏小瘤」翻刻及び解題」をはじめとする草稿研究を継続的に行っており、今後も『大衆文化』(大衆文化研究センター)に連載する予定である。

## 4 国際シンポジウム

2018 年 11 月 25 日(日)に立教大学池袋キャンパスを会場に国際シンポジウム「江戸川乱歩のモダニティ」(主催・立教大学文学部文学科日本文学専修、共催・立教大学日本文学会、立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター、立教大学日本学研究所、立教 SFR 共同プロジェクト研究「江戸川乱歩所蔵資料の活用による探偵小説研究」)を開催し、アメリカ 2 名、韓国 1 名、日本 2 名の登壇者による研究発表とディスカッションを行った。

## 研究【経過・成果】の概要 つづき

当日は 100 名近い聴衆が詰めかけ、活発な質疑応答がなされ、共同研究メンバーにとっても有益な情報が数多く得られた。同シンポジウムの内容は年度末に刊行する共著に収録して多くの研究者に読んでもらうことにした。

## 5 共著の出版とその利用

共同研究の集大成として、2019 年 2 月に『江戸川乱歩新世紀 越境する探偵小説』（ひつじ書房）を刊行した。同書には、海外の江戸川乱歩研究者 5 名、国内研究者 11 名が論考を発表するとともに、上記した国際シンポジウムの議論を収録した。論文執筆者には共同研究メンバー 3 名の他、立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センターの元学術調査員・落合教幸、元助教・丹羽みさとが名を連ね、立教大学のプロジェクトとして大きな成果を収めることができたと考えている。また、同書には国内の若手研究者にも参加してもらい、江戸川乱歩研究の新たな方向性を示す内容に仕上げることもできた。2019 年秋には研究代表の石川が全学カリキュラム科目「表象文化」（秋学期）で「江戸川乱歩を読む」という授業を行うが、同書はそのテキストとしても活用される予定である。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

【雑誌論文】

- 金子明雄 記憶すること・忘却すること・物語ることー芥川龍之介「疑惑」を手がかりに  
後藤隆基編『〈3・11〉後の表現を考える』立教大学日本学研究所、2017年9月、18-23頁
- 金子明雄 〈天才〉と〈犯罪者〉のあいだー大正期谷崎作品の人物造型をめぐるー  
『大衆文化』第18号、江戸川乱歩記念立教大学大衆文化研究センター、2018年3月刊行予定
- 川崎賢子 もう一人の彼女：李香蘭/山口淑子/シャーリー・ヤマグチ(7)「私の鷲」とロシアン・コネクション  
『図書』(818)24-29頁、2017年4月、岩波書店
- 川崎賢子 もう一人の彼女：李香蘭/山口淑子/シャーリー・ヤマグチ(8)田村泰次郎と彼女  
『図書』(821)32-37頁、2017年06月、岩波書店
- 川崎賢子 もう一人の彼女：李香蘭/山口淑子/シャーリー・ヤマグチ(9)上海租界の文化人とインテリジェンス  
[in Japanese]『図書』(823)31-37頁、2017年08月、岩波書店
- 川崎賢子 「上海の女」小論 『Intelligence』18号、20世紀メディア研究所、2018年3月刊行予定
- 川崎賢子 博多人形がつながる夢野久作と江戸川乱歩 『センター通信』第12号、2018年3月23日、1-3頁

【図書】

- 石川巧・落合教幸・金子明雄・川崎賢子編『江戸川乱歩新世紀 越境する探偵小説』(ひつじ書房、2019年2月)
- 落合教幸 平井憲太郎・落合教幸、他3名『怪人 江戸川乱歩のコレクション』新潮社、2017年12月、全142頁
- 川崎賢子 共編著『定本夢野久作全集2』(谷口基、沢田安史、西原和海と共編)国書刊行会、466頁、2017年5月
- 川崎賢子 共編著『定本夢野久作全集3』(谷口基、沢田安史、西原和海と共編)国書刊行会、569頁、2017年10月
- 石川巧 単編著『海外外郭団体雑誌『くろがね』復刻版』金沢文圃閣、2018年11月
- 石川巧 単著『幻の雑誌が語る戦争』青土社、320頁、2018年1月
- 石川巧 単編著『幻の戦時下文学』青土社、2019年2月
- 石川巧 編著『「妖奇」復刻版』三人社、2016年11月～2017年12月、全10巻
- 石川巧 「戦時下の英雄伝説ー小谷部全一郎『成吉思汗は義経なり』(興亜国民版)を読む」(小澤実編『近代日本の偽史言説 歴史語りのインテレクチュアル・ヒストリー』勉誠出版、386頁、2017年11月所収)

【シンポジウム・公開講演会等の開催】

- 石川巧 シンポジウム「小劇場演劇の現在・未来」(2017年11月5日、立教大学)
- 石川巧・落合教幸・金子明雄・川崎賢子 学会パネル発表「江戸川乱歩所蔵資料の活用による探偵小説研究」(2018年度 日本近代文学会春季大会、2018年5月26日、早稲田大学)
- 韓程善・SETH JACOBOWITS・大森恭子・浜田雄介・川崎賢子 国際シンポジウム「江戸川乱歩のモダニティ」  
(2018年11月25日、立教大学)

【その他】

- 川崎賢子 講演「李香蘭をめぐるインテリジェンス人脈」(第20回諜報研究会、2017年9月30日、早稲田大学)
- KAWASAKI KENKO Girls Debate:in Aoi Sanmyaku  
Biennial Conference of the Japanese Studies Association of Australia(JSAA) University of Wollongong 27-30 June 2017  
Debating Democracy in Japan
- 石川巧 講演「ひとりひとりの死を弔うためにー長谷川四郎「小さな礼拝堂」論」(韓国日本語文学会、東義大学校、2017年11月13日)